

都留市の私の私

ジエームス インク

とうとうこの愛すべきまち都留市を発つ時がやってきました。都留市に来てたった二年しか経っていないなんて信じられません。いま都留市でのたくさんの経験や思い出を胸に私はアメリカに帰っていきます。もう二度と戻ってこれないかもしれません。私のことをほんの少しでも都留市の皆さんの心にとめていただければ幸いです。都留市で二年間過ごした一つの記念としてこの文章を書きます。

まず最初に、この二年の間お世話になった都倉市長をはじめ教育委員会の方々に感謝いたします。いろいろご迷惑をお掛けいたしました。皆さんはいつも私を理解しようとして一生懸命努力してくれました。また、都留一中、二中、東桂中の先生及び生徒の皆さんにもありがとうございます。私は皆さんから日本の心や社会そして教育のシステムを学ぶことができました。特に日ごろ、より良い英語の授業ができるようにと私を助けていただいた英語の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。彼らの暖かいご理解と強靱な精神には感服いたしました。そして、この二年間、なかよくしていただいたたくさんの友達の皆さんほんとうにありがとうございます。皆さんの暖かい心づかいはいつまでも忘れません。

今の気持ちを一枚の紙に書き表すことは難しいけれど今私の頭の中でここで過ごした思い出が走馬燈のように駆け巡っています。周回の山々の緑、春の澄み切った空、冬の漆黒の夜空、見る人を魅了する壮大な富士山、詩情漂う秋の日々、それぞれが私の胸に思い出として残っています。この素晴らしさは私ばかりではなくだれもが感じることでしょう。しかし、私が都留市に住んで感じたことはこうした自然の美しさのような素晴らしいことばかりではありません。多少は、困ったことや変に思ったこともありませう。

まず最初に英語の教師としていつも教育機構の矛盾を感じていました。私を含め約二千名が参加している「外国青年招致事業」は子供達に日常英会話ができるようにと文部省が進めて来たものです。しかしながら、これは多くの問題を抱えています。第一に文部省は日常英会話を教えるための教科書を用意していません。第二に、一週間にたった三時間では十分に外国語を学べるわけがありません。また、ただでさえあまり勉強する時間もないのに、子供たちは部活動に体力を注ぎ過ぎて勉強する気力を使い果たしてしまっています。そして生徒たちにとって最も大きな障害は高校の入試だと思えます。

入試にでてくる英語の問題には、しばしば不自然で長時間の暗記をしなければできないような極めて不可思議な問題があります。言えることは、英語の教師としてほんとうの生きた英語を教える責任を果たさなければならぬと思っても、この高校入試が障害となっていてということですね。しかし、入試の準備に合わせた教え方をすると今度は生きた英語が学べなくなりませう。これは生徒たちにとって悲劇というしかありません。同時に私たち英語教師にとっての侮辱でもあります。このばかげたシステムが英語を教えるという仕事を阻害しています。こうした状況からわかるように、これは文部省の唱える学校の国際化とは矛盾したものです。外国人の先生にしても日本人の先生にしても英語の先生は何のカリキュラムも与えられていませんし、使いやすい教科書もガイドラインもありません。私たちは不透明で抽象的な理論と「がんばってください。」の一言だけでは手の打ちようがありません。これからの教育がどうなるかは日本の国民が正直にどうしたら良い教育がうけられるかを考え、行動するか否かにかかっています。

私が日本で生活している間、いつも感じていたことがあります。これは英語教育にも影響するものです。いわゆる精神的な問題です。私は人種の異なるアメリカ人です。二年間まるで宇宙人としての生活をおくってきました。でもそれは私にとってたまたまなく苦痛でした。日本人はいつも「日本は島国だ。何百年も孤立していた。」とか言っています。しかし現代では世界はマスメディアや飛行機で結ばれています。私はどうして都留市の人は外国人を見るとパニックになっってしまうのか不思議に思います。国際都市東京からたった一時間たらずのところなのに、おかしいとは思いませんか。この宇宙人としての特別扱いは子供たちに多くみられます。ただ単に子供だからしょうがないと片付けてしまってもよいのでしょうか。いったい親は子供にどのような躰をしていられるのでしょうか。こまごまのことです。よくスーパーやバス停で私を指して「あ、外人だ。」という子供がいます。それも親と一緒にいる分別があっても良い年の子供がです。もし私個人が人寄せパンダであったならそれは仕方がないことです。でも私は皆さんと同じ人間なのです。日本人と同じに扱って欲しいのです。私の一〇〇メートルも後ろから「ハロー、ハロー。」と二十回も叫んで欲しくはありません。私は「外人」と言う言葉が大嫌いです。なぜならそれは差別的な言葉なのです。英語でFOREIGNERは外国人と言う意味です。外人というのは部外者と言う意味だと思えます。私にとってこの「外人」という日本語は実に耳障りな言葉です。きっと日本に住んでいる外国人は誰しも同じ考えをもってのことでしょう。外国人といかにうまく付き合っていくかは彼らのことをいつまでも外人扱いしない事

だと思えます。「ご飯はたべられるの。」とか「鼻が高いね。」とかこんなつまらない会話のせいで、これよりもずっと興味のある面白い会話をする時間が奪われて来ました。そんなつまらない話よりスポーツ、音楽、政治、映画、趣味、生活様式などもっと楽しい話がたくさんあったのに残念です。そうすれば国籍をこえてお互い外面的な異国人ということ抜きに付き合うことができるのではないのでしょうか。子供たちにも同じことが言えます。変な人間がしゃべっているつまらない言葉と考えるより、やればできる、ふだん話している日本語と同じように考えれば英語はきっとできるようになるでしょう。

たぶん今私がここで言ったことで何人かの人を怒らせたかもしれませんが知れません。でも、これは私がかみ切った偽らざる事実なのです。私はアメリカに帰ってもこの教育的、社会的な問題を忘れることはできないでしょう。ここで私が感じたままに正直に文章を書いたことはきっと皆さんに役立つ時が来るでしょう。

しかし、私の都留市でのこうした否定的な面が私の経験できた皆さんの本当の優しさや暖かい気持ちを曇らせることは決してありません。この二年間は私にとって都留市というまち、そして人々からの永遠の贈り物としていつまでも私の心に残っていることでしょう。ありがとうございます。